

～ハツとしたとき出るエッセイ～



# 坊守のひとりごと



愛知県安城市和泉町中本郷41

2021年4月1日号

## 「子ども上山研修2021」

中学校や高校に進んでもお寺と関わり続けてほしいとの願いで、小学校を卒業した春休み中の子どもたちと「子ども日曜学校卒業記念 上山研修」を32年前から開催しています。行き先は、京都の東本願寺と広島市の平和記念公園。定宿は宮島のゲストハウス菊がわ。「観光旅行や一般の研修では決して体験できない、いのちや生き方についてじっくりと考える、本龍寺ならではの研修」が謳い文句です。しかし、2年前は本堂落慶に伴う御遠忌法要で、昨年はコロナ禍で実施できず、今年になっても2回目の緊急事態宣言が出される状況でした。

この中で、研修を実施するのかどうか、住職と二人悩んでいました。すると、保護者の方より「上の子が数年前に上山研修に行って、とってもよかったと喜んでます。ぜひ今年も企画して連れて行ってほしいです」という声が届きました。また、社会人になった卒業生からも、友だち同士の旅行で「上山研修で行ったところへ行ってみたい」と問い合わせがありました。まさしくこれが「仏さまの声」だと、研修実行を決断したことでした。

ただし、宿泊なしで京都の日帰り。そして、本来ならば一昨年と昨年に参加予定だった現在の中学2年生と1年生の日曜学校卒業生にも声をかけました。結果、参加者18名という久しぶりに大人数の研修となりました。



今年はマイクロバスを住職が運転して行きました。車中のおやつは同朋婦人会さんが協力して用意してくれました。8時30分にはご本山に到着。すぐに御影堂前で記念写真。みんな万歳して写真に納まりました。本当に来られてよかった!!

御影堂の親鸞聖人ご真影（お木像）の前で正信偈のお勤めをして、諸殿拝観へ。阿弥陀堂、大寝殿、白書院、宮御殿など一般の人では入れない奥まで行ってお話を聞きました。今回初めて

青少幼年センターの方に説明をお願いしました。記念品としていただいた袋の中には、ご本山の子ども用地図、花まつりや親鸞さまのご一生などが漫画と子ども用解説でわかりやすく書かれたリーフレット、子ども用の白念珠、風船まで入っていて、ご本山の子どもたちにも教えを伝えていこうという姿勢に感銘を受けました。



お昼前に御影堂門の掃除。ものすごく急な階段を登ったら、子どもたちのテンションもうなぎ登り。門の高さも堂内の汚れ具合も申し分なく、やりがいのある清掃を張り切って行いました。

昼食は、<sup>がつしようごぜん</sup>同朋会館にて合掌御膳をいただきました。大部屋が用意されていて、間隔を置き一方向を向いて座りました。フェイスシールドに完全防護をした女性二人がお給仕をして下さり、しっかりとコロナ対策がとられていました。黙食は

学校でしっかり身につけているらしく、子どもたちは食べ始めると急に静かになりました。

午前中ずっと小雨が降っていたため<sup>きこくてい</sup>枳殻邸の散策は取りやめて、ゆったりしたスケジュールに切り替えました。境内にあるお買い物広場で、ゆっくりとお土産を買いました。

午後は、親鸞聖人が9歳の時に<sup>とくと</sup>得度された<sup>しようれんいん</sup>青蓮院と、聖人が<sup>ていはつ</sup>剃髪した髪<sup>まつ</sup>の毛<sup>うえがみどう</sup>を祀った植髪堂をお参りして、帰途につきました。



恒例だった広島<sup>の</sup>平和記念公園と宮島への研修がない、一日京都<sup>のみ</sup>のスケジュールで、何か物足りないと感じていました。しかし、コロナ禍<sup>か</sup>の中で、とにかく無事に帰って来ることが何より大切でした。「<sup>たず</sup>尋ねる」とは分からないことを聞くという意味と、その場を訪ねて現地の空気に触れ、体で感じるという2つの意味があるそうです。ご本山<sup>を</sup>訪ねて、長い歳月をかけて浄土真宗の教えを守り伝えて下さった親鸞聖人はじめ多くの念仏者の祈りを、肌で感じてもらえたでしょうか。手を合わせて座る子どもたちの背中を<sup>たず</sup>拝んだことでした。

参加してくれた子どもたち、応援して下さった保護者の方、お寺の関係者に心より感謝申し上げます。

坊守 樋口頼子